

歴史散歩

波瀬城跡

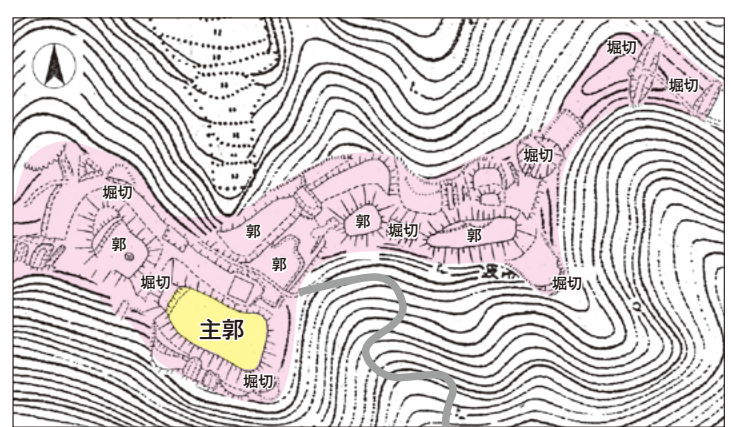
県道43号を、JR井関駅から波瀬川沿いに美杉地域を目指して進むと、右手に東西に横たわる丘陵が見えてきます。この丘陵の、標高150〜160mの尾根上に、波瀬城跡があります。丘陵の麓から徒歩で10分程、急な斜面のつづら折れの道を登ると城跡へ行くこ



南から見た波瀬城跡の遠景

とができます。麓からの高さは約80mで、そこから眺望は西に矢頭山、北に白山町川口の白山比咩神社、東に一志町井関・小山区を望むことができます。波瀬城は、北畠氏の一族である木造雅俊が応永元(1394)年に築城し、その子孫の木造雅通・康親親子が織田信長に滅ぼされる天正5(1577)年まで存在していたといわれています。城は、折れ曲がつて伸びる尾根上に東西約190m×南北約110mの大きさに造られ、城の西の最高部に最も大きな郭(主郭)がありました。その周囲には郭や堀切

とができます。麓からの高さは約80mで、そこから眺望は西に矢頭山、北に白山町川口の白山比咩神社、東に一志町井関・小山区を望むことができます。



波瀬城跡実測図(伊勢中世史研究会「伊勢の中世」第32号に一部加筆)



が連続して設けられ、守りの堅い構造になっています。北畠氏は、多気から一志地域の平野部へ至る道として、「多気―桜峠―下之川―矢頭峠―波瀬―一志平野部」というルートに早くから注目し、戦略・物流の要衝であるこの地に城を造ったと考えられています。周辺には、同じく北畠一族が造ったといわれる、上出城と出丸城の城跡があります。北畠氏の史跡をめぐって、当時の波瀬地区に思いをさせてみてはいかがでしょうか。

●市財政収入の一部に寄与することを目的とし、業紙に広告を掲載しています。掲載している広告内容については、津市が保証しているものではありません。